各　位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2023年12月分)

ご協力ありがとうございました。2023年12月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 142社　　回答 132　　回答率 93.0%

	前月比						前年同月比					
調査項目	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計
売上数量	8社 6.1% (5.9)	16社 12.1% (12.5)	43社 32.6% (49.3)	42社 31.8% (22.1)	23社 17.4% (10.3)	132社	10社 7.7% (12.7)	16社 12.3% (15.7)	46社 35.4% (28.4)	32社 24.6% (20.9)	26社 20.0% (22.4)	130社
売上高	11社 8.3% (5.9)	17社 12.9% (12.6)	41社 31.1% (49.6)	39社 29.5% (20.7)	24社 18.2% (11.1)	132社	12社 9.2% (14.2)	16社 12.3% (14.9)	41社 31.5% (30.6)	37社 28.5% (20.9)	24社 18.5% (19.4)	130社
在庫数量	3社 2.4% (3.8)	11社 8.7% (11.5)	80社 63.5% (62.6)	29社 23.0% (19.8)	3社 2.4% (2.3)	126社	8社 6.3% (10.2)	22社 17.5% (16.4)	51社 40.5% (45.3)	30社 23.8% (17.2)	15社 11.9% (10.9)	126社
販売単価	1社 0.8% (1.5)	5社 3.8% (4.5)	105社 80.8% (82.8)	16社 12.3% (11.2)	3社 2.3% (0.0)	130社	9社 7.0% (7.6)	25社 19.4% (18.2)	55社 42.6% (49.2)	33社 25.6% (21.2)	7社 5.4% (3.8)	129社
収益状況(粗利)	5社 3.8% (4.4)	13社 9.8% (13.2)	55社 41.7% (48.5)	37社 28.0% (21.3)	22社 16.7% (12.5)	132社	7社 5.4% (6.8)	12社 9.2% (12.8)	41社 31.5% (39.1)	45社 34.6% (18.8)	25社 19.2% (22.6)	130社
稼働率(生産・加工設備)	2社 1.7% (1.7)	15社 13.0% (13.4)	53社 46.1% (63.0)	38社 33.0% (14.3)	7社 6.1% (7.6)	115社	5社 4.4% (6.1)	13社 11.5% (13.0)	52社 46.0% (52.2)	32社 28.3% (15.7)	11社 9.7% (13.0)	113社
入出庫のトラック台数	1社 0.8% (1.5)	12社 9.3% (9.9)	65社 50.4% (64.1)	37社 28.7% (16.8)	14社 10.9% (7.6)	129社	4社 3.2% (2.3)	10社 7.9% (14.0)	64社 50.8% (52.7)	35社 27.8% (20.2)	13社 10.3% (10.9)	126社
	現在の景況感						3ヶ月後の景況予測					
	0社 0.0% (0.0)	10社 7.8% (9.9)	58社 45.0% (48.9)	43社 33.3% (28.2)	18社 14.0% (13.0)	129社	0社 0.0% (0.0)	13社 10.2% (11.6)	88社 69.3% (72.9)	23社 18.1% (13.2)	3社 2.4% (2.3)	127社
特記事項												

注　①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②(　)内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局　TEL：047-350-5311　FAX：047-350-5316

景況実感調査(2023 年 12 月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 12 月は 11 月比横這いであった。人手不足や世界経済鈍化の影響で各産業が精彩を欠く中、自動車産業が下支えとなり、どうにか頑張った印象である。2024 年も世界経済は鈍化予想となっており、量より質へ転換し収益改善に取り組まねばならない。

② 表面処理鋼板は市中で一部歯抜けのサイズが出て来ているものの、製造業全般で需要は弱く、盛り上がりを欠く状況である。高炉メーカーは、原料高により値上げを唱えているが、需要が弱くマーケット環境がどれくらい上向くかが焦点である。

③ 販売量は何とかキープしているが、月を追うごとに販価が下がり採算が悪化している。加工サイドでは置場ネックもあり、加工の微調整をしている。

④ 12 月は月末に向けて進むにつれて電話も引合いも極端に減り、早い段階で年末年始を認識した。1～3 月で明るい話題がなく、タイト感もない。価格動向、与信を注視していく。

⑤ 12 月は稼働日が 18 日と少なく、販売量が減った上に粗利率もどんどん落ちており赤字収益となった。稼働日が少ないのは 1 月、2 月も同様であり、収益改善のためには値上げが一番の近道だが、すぐに値上げできる訳もなく、様々な手を尽くして出来ることは何でもやるつもりで、収益改善に取り組む必要あり。

中板

① 中板の実需は相変わらず精彩を欠いており、引合いは低調。12 月、東鉄は据え置きであるが、現状が底値と見ている。在庫は一部歯抜けも出てきており、需要動向にもよるが、春先には在庫次第では単価が上がる可能性も出てきた。

厚板

① ＜全体感＞厚板を扱うどの産業分野も、前月と状況は変わらず需要に盛り上がりがなく、総じて低調に推移している。原料コスト高騰を受けて、高炉材の値上げの話が確定的だが、仮需の動きは見受けられない。＜分野別＞建機分野では、各メーカー共に下期調整に入る局面を迎えている。産機分野では、11 月の工作機械受注額が前月を上回ったものの、前年同月比では引き続き前年割れしており、先々の不透明感は変わらず。店売り分野では、引き続き中小建築物件の荷動きが悪く当面、需要の回復は望めない模様。

② 例年と比べて年末の駆け込み需要が少なかったように思われる。年明けの仕事については、当社としては問題ないので、次月は通常レベルに戻るだろう。

③ 建設機械は、当社の取引先では生産調整を実施している機種もある。店売り関連は、人手不足等の影響で案件の延期、中止等により売上も減少している。

一般形鋼・H形鋼

① 9 月からの跛行的売上高が顕在化した月であった。月間販売数量は 2000 年度と、回復傾向にあった 2021 年度の水準に落ちた。どの業種の顧客も受注は押しなべて薄い中で、さらに期末を控えての発注も少なくなり手詰まり感が強い。

② 建築資材の高騰、技能者の高齢化と人員不足により着工が遅れ、建築計画の見直しが多い。先行きが不透明。

③ Hは広幅中心にタイト感が秋以降継続中で、在庫は引き締まった状況。一般形鋼は低位安定が長らく続いていたが、12 月に入り建築、土木共にチャンネルの引合いが増加し、欠品も増えた。スクラップ相場は為替の影響に多少左右されたものの、原料相場の変動を遥かに凌駕する物流や電力など諸コストに対し、メーカーの転稼への発信と意欲は日ごとに増す状況。我々流通としても潮目の変化とコストをしっかりと認識しマーケットへの理解を求め、採算確保に努めるべきだ。

異形棒鋼

① スクラップ市況、製品市況は、ほぼ横ばいで推移。年末に近づくにつれて荷動きはパッタリと止まり、早めの手仕舞いとなった。

平鋼

① 12 月の中旬以降、店売りや建築関係の加工品の荷動きが悪化している。とくに年明けの 1 月中旬以降の加工品の山積みが低い状態。2 月もこのままの状態が続くと見られ、荷動きが良くなるのは早くて春先以降との話も出ている。店売りも結束出荷が少なく、必要最低限の出荷本数が主体となっている状況。

② 12 月中旬より荷動きが悪化。建機向け一部で生産調整が入っている。建築向けも遅れや延期も出ており当面厳しい状況。

軽量形鋼

① 稼働については前月並み。年度末(3 月)まで横ばいの見込み。

② 店売りは低調が続いているが、年明けから中小物件はさらに少なくなるのではとの予想が出ているので、緊張感を持って対応していきたい。

③ 資材の高騰、人手不足により建築の中小案件については、物件の遅れや一部中止も散見される。デッキ製品や軽量形鋼も動きは鈍い。

鋼管

① 11 月後半から日割り出荷量は上昇しつつあり、年明けの物件引合いは増えてきている。

② 首都圏エリアの遅れていた大型プロジェクトは確実に動きが出て来ている。ただし、問屋(流通)の在庫は十分で、一部サイズ以外にひっ迫感は強くない。一方、価格は維持されており、安値販売の話は聞かない。

構造用鋼

① 需要は、自動車関連で中部地区を中心に回復が進んでいるが主に紐付きで、関東地区、店売りは精彩を欠いている。建産機、工作機械も海外需要減により不調。在庫は、メーカー納期が短くなり需要も低調で、多めの状態が変わっていない。価格は、安くしても数量は見込めない状況で概ね現行価格で推移している。

磨棒鋼

① 自動車向け紐付き品は向け先によって好不況があり一進一退の状況だが、均してみると秋口より悪化している。建機向け出荷も直近では明らかに減少傾向になりつつある。店売りは低位安定と言いつつも、僅かずつ下降線をたどっている。

その他

＜異形バーインコイル・ナマシ鉄線＞

① 2024 年問題による運賃値上げやエネルギー代、副資材、人件費等が上昇しているが、荷動きが更に悪い状況で価格転嫁するには厳しい状況。

＜敷板リース＞

① 敷鉄板リースに関しては、下期に入っても期待していたほど荷動きが活発になっている実感がなく、稼働率はいま一伸び悩んでおり、まだ余力のある状況が続いている。

＜鉄スクラップ＞

① 例年、荷動きが活発になる 12 月だが、活気のないまま年末を迎えた。1 月もすぐに荷動きの回復は見込めず、相場も様子見が続きそうだ。

＜金属表面処理＞

① 先月同様、紐付き、スポット共に好調。1 月からはプラント関係の案件も出て来るので、高操業になる見込み。